

# 避難時に注意すること

# 災害時要配慮者の安全のために & 自主防災組織

## 〔戸締り・ガス・火元・電気のチェック〕

避難の際は、火の始末と戸締りを行いましょう。  
また、通電火災を防止するため、ブレーカーを落としましょう。  
避難時の持ち出し品は必要最小限になるようまとめましょう。

閉栓



## 〔車での避難は控える!〕

緊急車両の通行の妨げになります。  
浸水すると動けなくなりしますので危険です。



## 〔速やかに避難を!〕

動きやすい格好で、2人以上で避難しましょう。  
災害に巻き込まれる可能性があるため、忘れ物などを取りに、家に帰らないようにしましょう。

## 洪水・土砂災害での避難の仕方

### 〔歩ける深さに気をつける!〕

歩ける深さは平均約50cm。  
水がひざまで来たら助けを呼び、高い所で救助を待ちましょう!



50cm

### 〔ロープでつながる!〕

はぐれないようお互いの身体をロープで結んで避難しましょう!  
また、水面下には危険が潜んでいます。長い棒や杖がわりに安全確認をしてください。

### 〔履き物に注意!〕

裸足、長靴は禁物です。  
ひもで締められる運動靴が良いでしょう。



もしも、  
土石流に  
遭遇したら

### 逃げ方に注意しましょう!

土石流は流れるスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。  
土砂の流れる方向に対して、直角に逃げる等、逃げ方に注意しましょう。



## 地震の際の注意点

### ●屋内にいた場合

#### ●家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。



### ●屋外にいた場合

#### ●路上

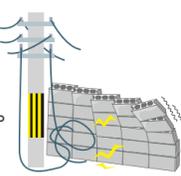
- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園など安全性の高い場所へ避難する。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線、ブロック塀などに近づかないように注意する。

#### ●海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。  
注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

#### ●車を運転中

- 徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。  
車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。



## 直前対策! 台風の進路にあったら

雨や風が強くなる前に余裕をもって対策を!

### 屋外では

- 物干し竿や物干し台は寝かせ、自転車なども風で飛ばされないように柱などに結びつけておく。
- 庭木に支柱を立てたり、風で飛ばされそうな植木鉢やゴミ箱などは屋内に入れておく。
- 側溝にたまった落ち葉などを取り除き、排水を良くする。雨どい・雨水ますの掃除もしておく。
- 窓や雨戸をしっかり閉め、外側から板などで補強しておく。
- かわらやトタンが飛ばされないように補強しておく。
- 浸水の危険がある場合は、日頃から土のうなどを準備しておく。



### 屋内では

- テレビやラジオなどの気象情報に十分注意する。
- 浸水に備えて、家財道具や食料・衣類・寝具などの生活用品は高い場所へ移動させ、貴重品などの非常時持ち出し品を準備する。
- 懐中電灯や予備の電池を準備する。
- 断水に備えて、飲料水を確保する。浴槽に水をはるなどしてトイレなどの生活用水も確保する。
- 外からの飛来物の飛び込みに備えて、カーテンやブラインドは下ろしておく。



## ● 援助が必要な人がいたら

### 〔高齢者や病気の方〕

お年寄りや子ども、病気の方などは、早めの避難が必要です。  
みなさんと協力して避難しましょう。



### 〔耳の不自由な方〕

話す時はまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。手話、筆談、身ぶりなどの方法で正確に情報を伝えましょう。



### 〔目の不自由な方〕

はっきり、ゆっくり大きな声で話しかけましょう。誘導する場合は、ひじの辺りを軽く持ってもらい、ゆっくりした速度で半歩前を歩きましょう。



### 〔体の不自由な方〕

車いすの方の場合、階段では必ず3人以上で!昇る時は、前向きに、降りる時は後ろ向きにします。

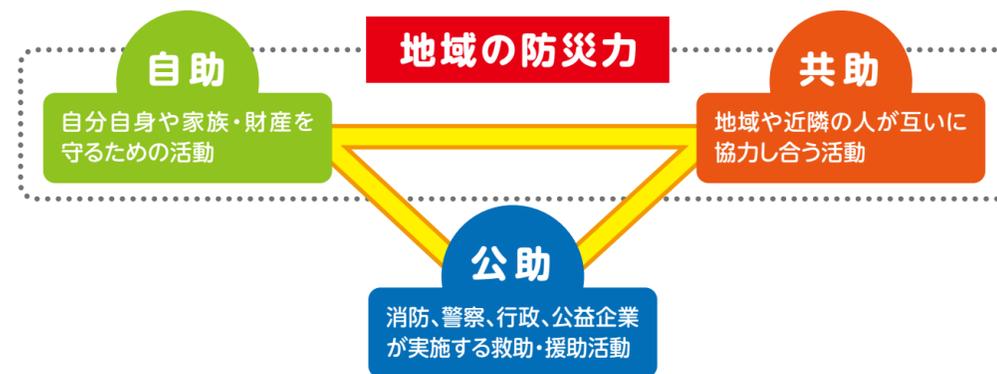
## ● 自主防災組織〈地域の防災力〉

災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。  
ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動(公助)は交通網の寸断や同時多発火災などにより十分対応できない可能性があるため、個人の力で災害に備える(自助)とともに、地域での助け合い(共助)による地域の防災力が重要となります。

災害に強い地域づくりを目指して、災害時の被害を軽減するため、「自主防災組織」活動を通じて、共助の強化、地域の防災力の強化に向けた取組を始めてみませんか?

## ● 防災士〈防災士の役割〉

平常時	自分の身のまわり、家庭の防災・減災対策の実施。地域や企業における防災意識の啓発活動、訓練・研修などの実施や参加。
災害時	消防や警察、自衛隊などの公的支援が到着するまで、被害の軽減を図り、救出活動や救出救助、避難誘導などを行う。
災害発生後	自治体、防災関係機関、NPOなどと連携・協働して被災者支援にあたる。



## 自主防災組織とは?

- 災害発生時はもちろん、日頃から地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」と言います。
- 平常時には防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出救助、集団避難、避難所への給食給水などの活動を行います。



## なぜ、自主防災組織が必要なの?

- 大規模な災害が発生した場合、消防署などの防災機関だけでは、十分な対応ができない可能性があります。
- このような時、地域の皆さんと一緒に協力し、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出・救護活動に取り組むことで被害の軽減を図る事ができます。また、活動を迅速に進めるためには「お互いに顔の見える関係」の中で、事前に地域内で役割分担を決めておくことが有効です。
- より効率よく、さまざまな活動をするためにも事前の準備(=体制づくり)が重要です。